

良質な社会資本を創造し次世代に引継ぐために

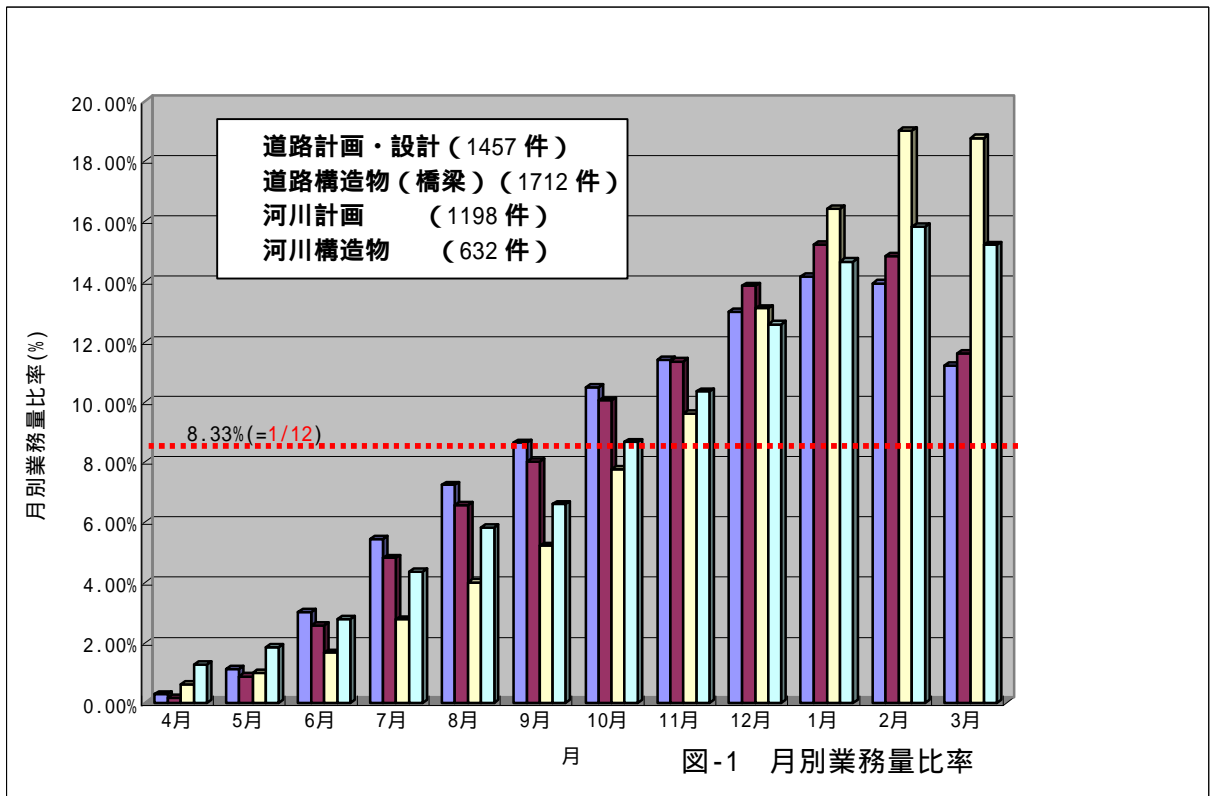
適切な工期設定による 業務量の平準化

社団法人 建設コンサルタンツ協会

＜業務量集中の現状＞

道路及び河川分野を対象に、建設コンサルタンツ協会で調査した結果を図-1「月別業務量の比率」、表-1「年度を跨ぐ業務の件数比率」および図-2「業務量累加曲線（河川計画業務の例）」に示します。これらより以下のようなことがわかりました。

1. 完全に平準化されたとすれば、月別業務量比率 8.3%（100%/12ヶ月）となりますが、第1四半期はもちろん、第2四半期に至っても、その値を下回っています。逆に年度後半、特に12月以降は平準値（8.3%）の1.5倍を上回る集中となっています（図-1）。
2. 工種別では、道路関係業務よりも河川関係業務の方が集中の度合いが著しくなっています（図-1）。



3. 年度を跨ぐ件数比率（表-1）は道路関係業務では約 5%、河川系業務で約 10%に過ぎません。また、発注者による相異はほとんどありません。
4. 河川計画業務の業務量累加曲線（図-2）を見ると、実に業務量の 80% が下半期に集中していることがわかります。また、発注者による相違はほとんどありません。

表-1 年度を跨ぐ業務の件数比率

	全件数	道路 (%)		河川 (%)	
		設計	構造物	計画	構造物
国土交通省	1040	5.4	10.0	3.8	14.9
公 団 等	391	6.4	2.5	0.0	0.0
都道府県	2602	3.6	6.3	16.0	12.3
市 町 村	609	2.2	3.6	5.0	0.0
そ の 他	357	6.0	4.4	10.3	4.2
計	4999	4.0	5.8	9.2	11.1

月別業務量とは、契約金額を契約期間で除したもので、月別業務量比率は月当たり業務量を全契約金額で除したものです。これらのデータは、協会員を対象として、平成12年度の業務に対し、平成13年度に調査を行ったものです。

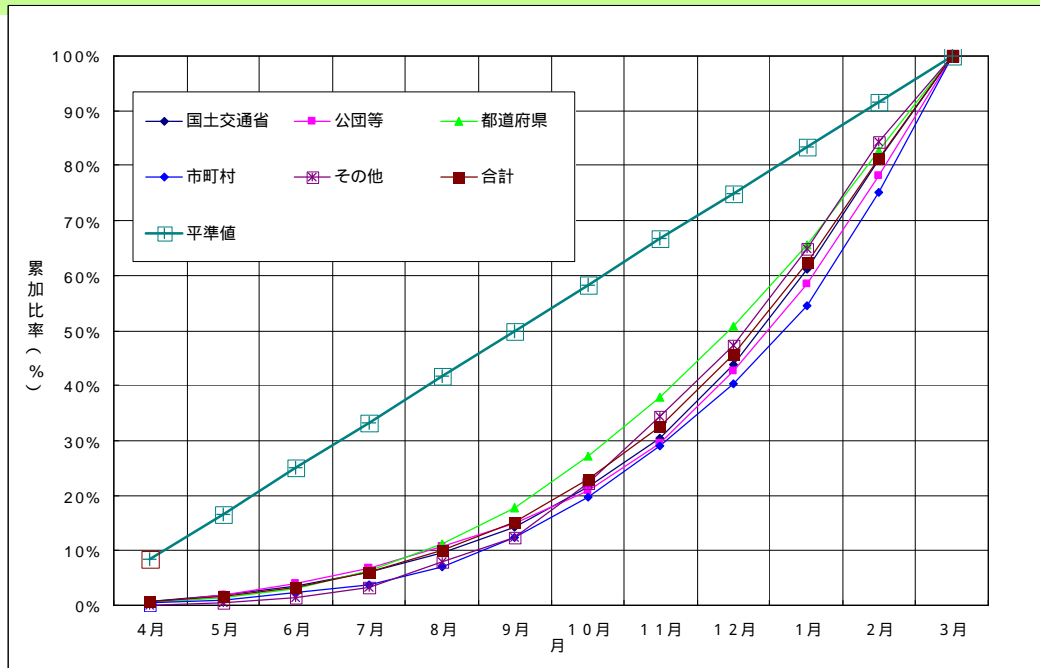


図-2 業務量累加曲線(河川計画業務の例)

< 業務量集中の弊害 >

建設コンサルタントの業務量が短期間に集中した場合、以下のような弊害が考えられます。

1. 検討および照査の時間が十分とれなく、ミス・エラーが発生しやすくなる
2. 業務量集中時期に合わせた従業員数を確保することは、企業経営を圧迫する
3. 過酷な長時間残業により技術者の業界離れが進む

結果として、業務成果全般の品質低下を招くこととなり、真の顧客である「納税者・市民の不利益」となります。

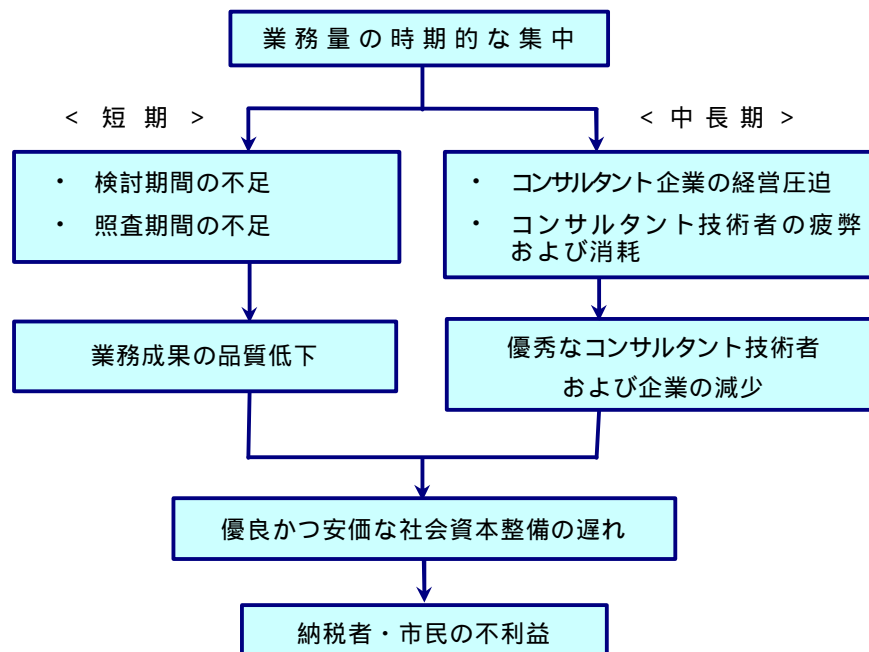


図-3 業務量集中による弊害発生フロー

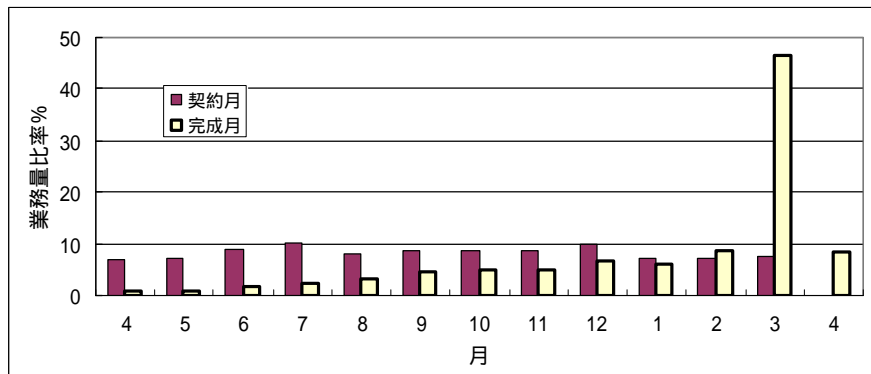
< 業務量の平準化に向けて >

建設コンサルタントの業務量の時期的な平準化は、業務成果の品質を向上させ、ひいては良質で安価な社会資本の迅速な整備につながります。

建設コンサルタンツ協会は、業務量の時期的な平準化を実現するため、以下のような提案をいたします。

1 業務規模に応じた適切な工期の設定

現状では業務の規模や発注時期にかかわらず、全業務の約 50%が3月工期となっています。業務成果の品質を確保するため、業務規模に応じた適切な工期を設定していただくようお願いします。



建設関連5団体による旧建設省・関係公団・都道府県・指定都市の平均（平成14年度調べ）

2 工期が年度を跨ぐ契約方式の活用

工期が年度を跨ぐ契約方式には、当該年度予算の場合は「繰越明許費」、翌年度予算の場合は「ゼロ債」があります。業務量の平準化を図るために、これらの方式の活用をお願いします。

3 業務の年度内早期発注

業務量平準化のためには、年度の第1四半期において相当量の業務を発注することが、必要です。早期の業務発注をお願いします。

建設コンサルタントは、安心して快適に暮らせる社会の実現のために、高度の専門技術力を提供し、豊かで活力ある社会資本整備に貢献します。

社団法人 建設コンサルタンツ協会

本部〒102-0083 東京都千代田区麹町1丁目6番地相互麹町第2ビル

TEL : 03-3239-7992 FAX : 03-3239-1869

URL : <http://www.jcca.or.jp> E-mail : info@jcca.or.jp